

地域がより主体的に公共交通を維持・充実する取組の推進

【担当省庁】国土交通省

奈良県における取組

「[奈良県公共交通基本計画](#)」に、地域主体の取組を明確に位置付け
(今年度中の改定に向け検討中)

基本理念

- 「地域の自立を図り、くらしやすい奈良」の実現
- 地域がより主体的に公共交通を維持・充実する取組に参画**
- 持続可能な社会・地域づくりに貢献する公共交通を構築

推進する施策

県内公共交通の維持・充実

- 地域主体の取組を強化
- 多様な輸送資源・モードの活用

公共交通に関わる空間の質向上

- 駅やバス停を「地域の拠点」に
- 誰もが使いやすい利用環境の整備

多様な関係者による連携・協働<奈良モデル>

- エリア毎の検討会議における市町村・事業者・県民等との連携・協働

時代の変革に対応した公共交通の構築

- デジタル技術・自動運転などの活用

検討プロセスの強化

・広域バス路線毎に、必要性や効率性を「診断」(バスカルテ)

強化

- ・多様な関係者が参画する「**エリア公共交通検討会議(仮称)**」を設置。
バスだけでなく、**地域の公共交通全体**について議論・アイデア出し。
- ・「公共交通とまちづくりのデッサン」に、取組の実施主体や役割分担を明記

新規

- ・**路線の抜本的再編や施設整備**などを「**重点取組事項(仮称)**」と位置付け実施
- ・国の支援事業等を活用しつつ、**県でも優先的に支援**。

今後の取組の方向性

- 県及び県内の全市町村にて、公共交通活性化・再生法に基づく「奈良県地域公共交通計画」(法定計画)を策定
 - 市町村における個別の「地域公共交通計画」の策定も支援
- これらの取組により、

- 現在の枠組み下で、**自治体・地域関係者による参画を最大化**。
- 「赤字バス路線」中心から、**対象範囲や取組内容を拡充**
(例:今は黒字だが、サービス拡大・改善の余地があるもの等)

〈具体的な取組のイメージ〉

- ・ 県が、必要な公共交通サービスの**内容・量**を積極的に提案。「**クロスセクター効果**」の反映等も試行。
- ・ 赤字路線は**一定の行政負担が前提**。黒字路線でも、パターンダイヤや増便による**潜在的需要を取込み**。
- ・ **無人駅等に商業・公共施設を併設し、「地域の拠点」として活用**。 JR御所駅舎内(まちかど案内所)



➡ 地域主体のより積極的な取組を展開するため**「財源」が必要**。

国にお願いすること

- 1 **地域公共交通のサービス維持・充実を都道府県の「責務(義務)」**として**制度上位置付けるとともに、その責務(義務)を果たす観点から、事業者に対する「権限」を都道府県に付与**することを検討いただきたい。

〔**地方交付税等の財源確保への第一歩として**〕

- 2 県及び県内市町村が推進する取組につき、検討に係るご指導や補助によるご支援をお願いしたい。